

第2章

「小学校、中学校の知的障害特別支援学級から特別支援学校 高等部までの一貫した教育課程の研究事業」

本章の構成(目次)

- 1 知的障害教育における「一貫した教育課程」…………… 32 ページ
- 2 「一貫した教育課程」と各教科等との関連…………… 33 ページ
- 3 「一貫した教育課程」と指導の形態 …………… 34 ページ
- 4 「一貫した教育課程」を構築するための具体的な方策…………… 34 ページ
- 5 各教科等の年間指導計画の活用…………… 35 ページ
- 6 特別支援学校学習指導要領と年間指導計画を関連付けるシート…………… 36 ページ
- 7 特別支援学校学習指導要領と年間指導計画を関連付けるシート作成事例…………… 38 ページ
- 8 既存の単元配列表を活用した「一貫した教育課程」構築の取組事例…………… 47 ページ
- 9 特別支援学校学習指導要領の内容に基づく実際の指導…………… 48 ページ
- 参考【知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本】…………… 50 ページ

※本章において、「知的障害特別支援学校の各教科」とは、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示されている、知的障害者である児童・生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科を表す。

1 知的障害教育における「一貫した教育課程」

1 知的障害のある児童・生徒のための「一貫した教育課程」とは

進級や進学、転学により学びの場が変わっても、知的障害のある児童・生徒の学習が確実に積み重なっていくように、児童・生徒の学習の状況に合わせて、知的障害特別支援学級及び知的障害特別支援学校において編成される教育課程

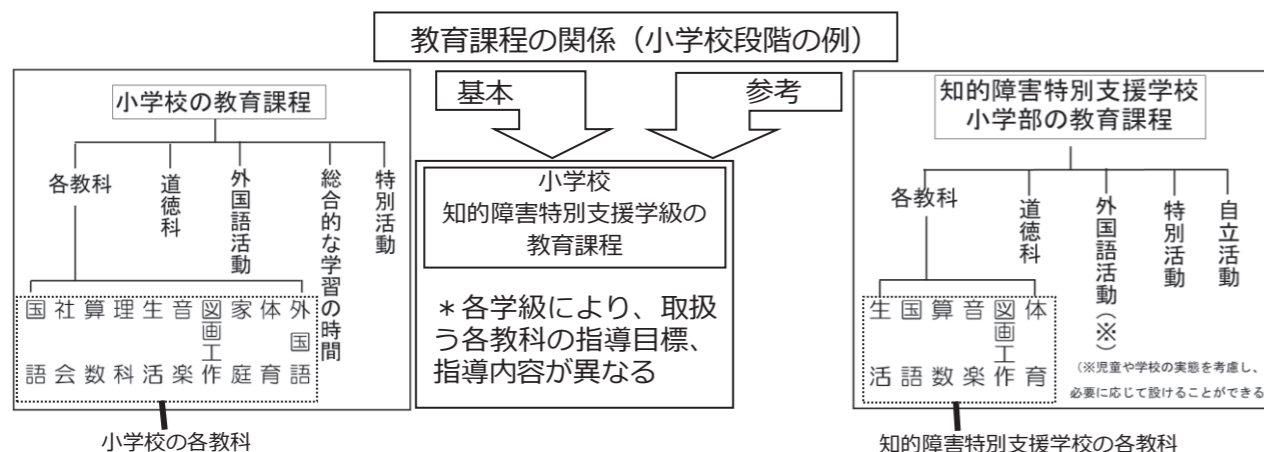
教育課程は、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童・生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画であり、その編成主体は各学校である。

各教科等の目標・内容について、小学校及び中学校の学習指導要領では学年ごとに示されているのに対し、特別支援学校学習指導要領における知的障害特別支援学校の各教科では、学年ではなく、段階として示されている。このことにより、個々の児童・生徒の実態等に即した効果的な指導がなされることが期待されている。そのため、知的障害のある児童・生徒を指導する際には、児童・生徒がそれまで学習してきた内容や身に付けてきたことを明確にしておくことが必要である。

2 知的障害のある児童・生徒が学ぶ教育課程の状況

小学校及び中学校に設置された特別支援学級の教育課程は、小学校及び中学校の教育課程を基本としつつ、知的障害特別支援学校小学部及び中学部の教育課程を参考として編成するため、在籍する特別支援学級の児童・生徒の実態に応じた教育課程編成となる。

さらに、知的障害のある児童・生徒が学ぶ特別支援学級及び特別支援学校においては、各教科の学習について、同学年の児童・生徒全員が必ずしも同一の指導目標・指導内容となるとは限らず、個別指導計画に基づき、一人一人の指導目標・指導内容は異なってくる。



3 「一貫した教育課程」構築のための考え方

以上より、「一貫した教育課程」を構築するための考え方として以下の2点を定める。

- ◆児童・生徒の発達の段階に応じて、育成を目指す資質・能力を明らかにする。
- ◆児童・生徒の学びの履歴や、身に付けてきたことを踏まえた指導を計画する。

2 「一貫した教育課程」と各教科等との関連

1 各教科等との関連

障害の程度・状態等は多様であり、発達期における知的機能の障害は、同一学年であっても個人差が大きく、学習の習得状況や経験も異なる。そのため、特別支援学校学習指導要領では、個々の児童・生徒の実態等に即して、知的障害特別支援学校の各教科等の内容を精選し、効果的な指導ができるよう、各教科の目標及び内容を段階によって示している。

各学校においては、知的障害特別支援学校の各教科等の目標・内容を、小学校段階では6年間、中学校段階では3年間を見通して、各学年での指導目標・指導内容について、在籍する児童・生徒の発達の段階や各教科等の内容の学習状況・習熟度に応じて計画的に設定し、指導していくことが必要である。

その際、「一貫した教育課程」の視点からは、各学校段階修了までに児童・生徒が学習した各教科等の内容を記録に残すなどして明らかにするとともに、高等部までの12年間の学校教育を通して、各教科等の指導内容をバランスよく配列し、資質・能力の伸長を図ることが必要である。

2 自立活動との関連

本事業では、各教科等の内容から「一貫した教育課程」を検討している。一方で、児童・生徒が各教科等の内容を確実に身に付けていく際に、知的障害に伴って見られる言語、運動、動作、情緒、行動等の特定の分野における発達の遅れや配慮を必要とする様々な状態による困難の改善等を図る必要がある。

相手の話を最後まで聞くことが困難な中学部の生徒の例

○身に付ける力
「相手の話を聞いて理解する。」

【特別支援学校学習指導要領 国語科の目標】
「友達の話を聞き、できごとを把握する」
（「聞くこと・話すこと」中学部 1段階から）

関連付けた指導

【自立活動の目標】
「分からない時、気持ちを落ち着けて質問する」
（「心理的な安定 情緒の安定に関すること」から）

学校生活全般を通じた自立活動の指導により、情緒の安定を図り、国語科の目標を達成する。

少しでも話が分からないとイライラする！
聞き返すのもなんかイヤだ！

3 個別指導計画との関連

教育課程編成の観点からは、各校が設定する各教科等の指導内容及び修了までに身に付ける力は、いくつかの習熟度別グループごとに設定することになる。

その上で、児童・生徒一人一人の発達の段階に応じた個別的な対応は、個別指導計画に基づき、指導方法、指導の形態及び教材・教具等の工夫により行われることが前提となる。

3 「一貫した教育課程」と指導の形態

知的障害特別支援学校の教育課程編成の特徴の1つとして、各教科等の内容について、教科別に指導を行うだけでなく、「各教科等を合わせた指導」(*)という指導の形態で指導を行えることがある。この2つの指導の形態の時数については、各学校が児童・生徒の実態等に基づいて教育課程を編成するため、学校によって異なったものとなり、教育課程編成上の特色ともなる。

(*「各教科等を合わせた指導」とは、「日常生活の指導」「生活単元学習」や「作業学習」などである。)

そのため、12年間の「一貫した教育課程」の構築のためには、指導の形態別に関わらず、「指導した各教科等の内容」について、学習指導要領に示されている各教科の段階の内容と関連付けて把握しておくことが必要となる。

指導の形態の違いと活動及び特別支援学校学習指導要領の各教科等の内容との関係
(小学校特別支援学級 第3学年の例)

	各教科別の指導	各教科等を合わせた指導
教科等	国語	日常生活の指導
活動	運動会の思い出(作文)	朝の会での昨日の出来事の発表
学習指導要領 国語科の内容	経験したことを思い浮かべて、伝えたいことを考える	

このことから、各教科等を合わせた指導を行うに当たっては、取扱う各教科等の内容を明確にし、関連を図った単元の設定を行うことが大切である。

4 「一貫した教育課程」を構築するための具体的な方策

「一貫した教育課程」を構築するための考え方や各教科等との関連などを踏まえ、知的障害教育における「一貫した教育課程」を構築するに当たって必要な具体的な方策は次の2点である。

- ① 各教科等の指導を行う上で、児童・生徒に知的障害特別支援学校の各教科のどの段階のどの内容を指導するのかを明らかにすること
- ② 児童・生徒がこれまで学習した知的障害特別支援学校の各教科等の内容及びその習得状況を、進級、進学及び転学の際に正しく引き継げるようにすること

この2点が的確に行われることにより、児童・生徒に指導する知的障害特別支援学校の各教科の段階が的確に把握されることとなるため、教員は把握した段階の指導内容をどのように教えるかという授業づくりに力を尽くすことができる。

また、児童・生徒の実際の習得状況に合った段階の内容についての指導が行われることにもつながる。

5 各教科等の年間指導計画の活用

各学校においては、編成した教育課程に基づいて実際に児童・生徒の指導を行うに当たり、各種の指導計画を作成している。

前項で要点として示した、「各教科等の指導内容の明確化」及び「これまで学習した各教科等の内容とその習得状況の把握」を実際に行うためには、各教科等の年間指導計画を活用することが考えられる。

そこで、知的障害特別支援学校の各教科の段階の内容と、各教科等の年間指導計画で示された内容との関連を明らかにすることが、「一貫した教育課程」の構築に有効であることから、「特別支援学校学習指導要領と年間指導計画を関連付けるシート」を作成した。

「特別支援学校学習指導要領と年間指導計画を関連付けるシート」のポイント

◆ 目指す各教科等の「資質・能力」に基づき、知的障害の各教科の段階の内容によって記録する。

学習活動を通して、どのような学習内容を身に付けてきたのかを把握する。

《中学部第1学年の生活単元学習 単元名「おもてなしをしよう」を例とすると・・・》

学習活動の内容

各教科の「資質・能力」に基づいた段階の内容

教員や友達と一緒にスーパーで買い物をする

お金を出してお釣りをもらう	算数 小 3段階	減法が用いられる求残や減少等の場合について理解すること
買うもの3つの値段の合計を電卓で計算する	数学 中 2段階	計算機を使って、具体的な生活場面における加法及び減法の計算ができること
「～はどこにありますか」と、店員にものありかをきく	国語 小 3段階	挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと

◆ 学習活動を通して身に付けた内容を、知的障害特別支援学校の各教科等の内容の記録で引き継ぐことにより、進級、進学や転学時の学校間接続の際の、正確な引き継ぎに活用できる。

学校間接続の前段階として、児童・生徒の到達状況を明らかにしておく。

6 特別支援学校学習指導要領と年間指導計画を関連付けるシート

1 特別支援学校学習指導要領と年間指導計画を関連付けるシートの作成方法

① 年間指導計画に基づき、知的障害の各教科の各段階の内容の欄の下に、その内容を取り扱う単元について、【A】「取扱う程度」(*1 参照)、【B】「実施月」、【C】「単元名等」、【D】「時数」、【E】「指導の形態」を、プルダウン等で入力する。

*1 示された内容の全部を取り扱っているのか一部を取り扱っているのかを選択する。

*2 年間を通して取り扱う内容については、時数の記入をする必要はない。

② 単元名等が入力されると、知的障害特別支援学校の各教科の各段階の内容の欄に色が付き、その内容を取り扱っていることが示される。

③ 単元の指導終了時点などに、学習グループの児童・生徒の到達状況を、プルダウンから選択する。

(到達状況の例)

- ◎ 概ね達成 (指導目標に対して 8 割以上の正答・適切な行動)
- 誤ることがある (指導目標に対して 5~7 割程度の正答・適切な行動)
- △ 要再指導 (正答等が 5 割未満)
- 既習事項

【小学部 国語】特別支援学校学習指導要領と年間指導計画を関連付けるシート (学習グループ版) から一部抜粋

1段階の内容				到達状況					
				A	B	C	D	E	
				○	○	△	□	□	
				年	年	年	年	年	
A 聞くこと・話すこと	ア	月	教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。	時数	形態				
	全部	4	人形劇	4	教科別	△	△	○	○
	全部	4	おもてなしパーティ	6	生単	○	○	○	○
	イ	月	身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。	時数	形態				
	一部	通年	昨日の出来事を話そう(朝の会)		日生	○	△	○	-
ウ	月	伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。	時数	形態					
		5	運動会の思い出を話そう	2	教科別				
B 書くこと	ア	月	身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	時数	形態				
	一部								
	イ	月	文字に興味をもち、書こうとすること。	時数	形態				

「各教科等合わせた指導」の場合にはセルに色がつく。

* 「知的障害特別支援学校の各教科の各段階の内容」について
知識・技能は思考力・判断力・表現力等の内容を通して学習することから、思考力・判断力・表現力等の内容で構成している。

2 「一貫した教育課程」構築のための、到達状況の引継ぎへの活用

シートには、「学習グループ版」シートとその学習グループに在籍する児童・生徒の「個人」シートがある。

「学習グループ版」シートに入力したデータは、同じデータ内の別シートにある「個人」シートに自動的に反映されるため、進級、進学や転学時には、「個人シート」を資料として活用することで、一人一人が学習した内容とその習得状況の的確な引継ぎを行うことができる。

【学習グループ版シート】

1段階の内容				到達状況					
				A	B	C	D	E	
				○	○	△	□	□	
				年	年	年	年	年	
A 聞くこと・話すこと	ア	月	教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。	時数	形態				
	全部	4	人形劇	4	教科別	△	△	○	○
	全部	4	おもてなしパーティ	6	生単	○	○	○	○
	イ	月	身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。	時数	形態				
	一部	通年	昨日の出来事を話そう(朝の会)		日生	○	△	○	-
ウ	月	伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。	時数	形態					
		5	運動会の思い出を話そう	2	教科別				

自動的に反映

【個人シート】

1段階の内容				到達状況					
				A	B	C	D	E	
				○	○	△	□	□	
				年	年	年	年	年	
A 聞くこと・話すこと	ア	月	教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。	時数	形態				
	全部	4	人形劇	4	教科別	△	△	○	○
	全部	4	おもてなしパーティ	6	生単	○	○	○	○
	イ	月	身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。	時数	形態				
	一部	通年	昨日の出来事を話そう(朝の会)		日生	○	△	○	-
ウ	月	伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。	時数	形態					
		5	運動会の思い出を話そう	2	教科別				

7 特別支援学校学習指導要領と年間指導計画を関連付けるシート作成事例

知的障害特別支援学級を設置している小・中学校 6 校及び特別支援学校 3 校において、年間指導計画をもとにシートの作成を行った。12 年間の「一貫した教育課程」を構築していくためには、このシートをもとに年間で指導した内容及びその到達状況を確認し、次の単元等で指導内容が適切に計画されるように活用していく必要がある。

1 児童の到達状況の的確な把握から指導内容の計画の見直しにつながる事例 (A 小学校特別支援学級 国語)

年間指導計画より

月	単元名	時数	月	単元名	時数
通年	週末の出来事をスピーチしよう		4	詩の音読をしよう	10
	絵本の読み聞かせを聞こう			漢字を使って、名前を書こう	3
	お話し会をしよう			漢字を使って、手紙を書こう	5

年間指導計画からシートへ



年度当初は、ウ、エの項目について、2 段階までの内容で計画をしましたが、7 月時点の各児童の到達状況を見ると、全員が「◎ (概ね達成)」となっています。

○7 月の単元終了時の到達状況

2段階の内容		到達状況					3段階の内容		到達状況								
月	単元名	時数	形態	A	B	C	D	E	月	単元名	時数	形態	A	B	C	D	E
ウ	体験したことなどについて、伝えたいことを考えること。								ウ	見聞きたことなどとのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること。							
通年	週末の出来事をスピーチしよう		教科別	◎	◎	◎	◎	◎									
エ	挨拶をしたり、簡単な台詞などを表現したりすること。								エ	挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。							
通年	週末の出来事をスピーチしよう		教科別	◎	◎	◎	◎	◎									

7 月までの指導における児童の到達状況から、3 段階の内容の指導を 9 月以降に計画しなおすことが考えられます。

なお、知的障害の障害特性から、「◎概ね達成」となった 2 段階の内容について、より確実な定着を図ることや発展的な内容とも関連させて、9 月以降も指導を行うことが必要な場合もあります。



2 知的障害特別支援学校の各教科と小学校の各教科の内容とを関連させた事例 (B 小学校特別支援学級 算数)

年間指導計画より

月	単元名	時数	月	単元名	時数
6	三角形・四角形・円の作図	8	7	三角形・四角形・円の作図	8
	表とグラフ	6		表とグラフ	4
	四則計算	5		四則計算	4

年間指導計画からシートへ



小学部 3 段階の内容を主として、小学校に準ずる内容とを関連させて指導を行っています。今回の学習指導要領の改訂のポイントの 1 つである、「学びの連続性」を重視した対応が求められます。

○7 月の単元終了時の到達状況

2段階の内容		到達状況					3段階の内容		到達状況								
月	単元名	時数	形態	A	B	C	D	E	月	単元名	時数	形態	A	B	C	D	E
ウ	ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えること。								ウ	見聞きたことなどとのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること。							
5.6月	三角形・四角形・円の作図	4	教科別	○	○	◎	○										
9.10.11.12月	タングラム・多角形の作図	3	教科別														
1.2月	直方体と立方体	4	教科別														
エ	具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。								エ	挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。							
5.6月	三角形・四角形・円の作図	4	教科別	○	○	◎	○										
9.10.11.12月	タングラム・多角形の作図	6	教科別														
1.2月	直方体と立方体	4	教科別														
オ	前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を用いて、ものの位置を表すこと。								オ	挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。							
1.2月	直方体と立方体	4	教科別														

小学校及び中学校における各教科の内容の指導を行うに当たっては、知的障害特別支援学校の各教科のそれぞれの段階の内容と、小学校及び中学校の学習指導要領に示された各教科の内容との対応やつながりを確認した上で指導を行うことが大切になります。



「一貫した教育課程」構築のポイント

特別支援学校学習指導要領に示された指導内容を取り扱っている単元を入力するに当たっては、可能な範囲で、具体的な活動内容や使用した教材や補助具等を単元名とともに記載するなどの工夫をすることで、指導内容の記録にも活用できます。

3 教科別の指導の到達状況の把握から、各教科等を合わせた指導での指導を検討する事例 (C 小学校特別支援学級 算数)

年間指導計画より

月	単元名	時数	月	単元名	時数
6	心にのこったことを、つたえよう	2	7	心にのこったことを、つたえよう	8
	作文を書こう「がんばった運動会」	10			

年間指導計画からシートへ



ア、イの内容について、1学期に教科別の指導で指導しましたが、7月の単元終了時の到達状況を確認すると、まだ誤ることがある児童が多く、「△要再指導」の児童もいます。

○7月の単元終了時の到達状況

		3段階の内容		到達状況					
				A	B	C	D	E	
				4年	4年	4年	5年	6年	
ア	月	絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること	時数	形態					
	全部	4~7	心にのこったことを、つたえよう	20	教科別	○	◎	○	△
イ	月	絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること時間的な順序など内容の大体を捉えること。	時数	形態					
	全部	4~7	心にのこったことを、つたえよう	20	教科別	○	○	○	○
ウ	月	日常生活に必要な語句や文、看板などを読み、必要な物を選んだり行動したりすること。	時数	形態					
	全部	通年	買い物学習	2	生単	○	○	○	○
エ	月	登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。	時数	形態					
	全部	10	学芸会	20	生単				

ア、イの内容については、より一層の理解を図るために、9月以降、各教科等を合わせた指導の形態での指導を計画し、教科別に学んだ内容を生活に即した一連の活動の流れの中で指導することも考えられます。



「一貫した教育課程」構築のポイント

各項目の指導内容の段階は、到達状況が必ず「◎」あるいは「○」にならないと次次の段階に進めないという性質のものではありません。次段階の指導を行う中で、前段階の内容の理解が深まることもあることから、小学校・小学部段階は6年間、中学校・中学部段階は3年間を見通して計画的に各学校段階の指導内容を指導することが大切です。

4 同一の学習集団の中で、指導をする段階の違いを明確にして指導をする事例 (D 中学校特別支援学級 国語)

年間指導計画より

月	単元名	時数	月	単元名	時数
5	前年度の復習	4	6	説明しよう	4
	詩の朗読	4		文章読解(物語文)	4
	道案内	4		聞き取り	4

年間指導計画からシートへ



イ及びウの内容について、1段階の内容を中心に取り扱って指導を行っていますが、2、3年生は、2段階の内容を教科別の指導で取り扱っています。

○7月の単元終了時の到達状況

		1段階の内容		到達状況					2段階の内容		到達状況									
				A	B	C	D	E			A	B	C	D	E					
				1年	1年	2年	3年	3年			1年	1年	2年	3年	3年					
イ	月	語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉えること。	時数	形態						イ	月	日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動すること。	時数	形態						
	全部	5	詩の朗読	4	教科別	△	△	○	○	全部	5	道案内	4	教科別				△	○	○
ウ	月	日常生活に必要な語句や文章などを読み、行動すること。	時数	形態						ウ	月	日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動すること。	時数	形態						
	全部	11	文章読解(説明文)	4	教科別					全部	6	文章読解(物語文)	4	教科別					△	○
ウ	月	日常生活に必要な語句や文章などを読み、行動すること。	時数	形態						ウ	月	日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動すること。	時数	形態						
	全部	12	文章読解(説明文)	4	教科別					全部	11	文章読解(説明文)	4	教科別						
ウ	月	日常生活に必要な語句や文章などを読み、行動すること。	時数	形態						ウ	月	日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動すること。	時数	形態						
	全部	5	道案内	4	教科別	△	△	△	○	全部	5	道案内	4	教科別					△	○
ウ	月	日常生活に必要な語句や文章などを読み、行動すること。	時数	形態						ウ	月	日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動すること。	時数	形態						
	全部	6	文章読解(物語文)	4	教科別	△	○	△	○	全部	6	文章読解(物語文)	4	教科別					△	○
ウ	月	日常生活に必要な語句や文章などを読み、行動すること。	時数	形態						ウ	月	日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動すること。	時数	形態						
	全部	11	文章読解(説明文)	4	教科別					全部	11	文章読解(説明文)	4	教科別						
ウ	月	日常生活に必要な語句や文章などを読み、行動すること。	時数	形態						ウ	月	日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動すること。	時数	形態						
	全部	12	文章読解(説明文)	4	教科別					全部	12	文章読解(説明文)	4	教科別						

知的障害特別支援学級及び知的障害特別支援学校においては、同一の学年や同一の学習集団の中でも、指導する内容の段階が児童・生徒によって異なる場合があります。

計画段階から、取り扱う段階の内容を明確にしておくことで、児童・生徒の発達の段階やこれまでの学びに応じた指導を適切に行うことができます。



5 教科別の指導における内容と各教科等を合わせた指導における内容の関連を明確にして指導する事例 (E 中学校特別支援学級 国語)

年間指導計画より

月	単元名	時数	月	単元名	時数
通年	速音読	毎時	4	説明力を付けよう(客観状況)	4
	漢字の学習	宿題		説明力を付けよう(気持ち・考え)	2
	日記	日生		作文	2

年間指導計画
からシートへ

○7月の単元終了時の到達状況

2段階の内容					
イ	月	相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にすること。	時数	形態	
A 一部	4・5・6	説明力を付けよう	17	教科別	
	4・5・6	作文	21	教科別	
	通年	日記		日生	
ウ	月	見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること。	時数	形態	
	4・5・6	説明力を付けよう	17	教科別	
	4・5・6	作文	21	教科別	
通年	日記		日生		
オ	月	物事を決めるために、簡単な役割や進め方に沿って話し合い、考えをまとめること。	時数	形態	
	通年	作業学習		作業	
	通年	行事の事前、事後学習		生単	

イ及びウの内容については、1学期及び通年で教科別の指導「国語」で取り扱っている内容を、各教科等を合わせた指導の「日常生活の指導」においても通年で取り扱っています。

オの内容については、通年で各教科等を合わせた指導の「作業学習」、「生活単元学習」で取り扱っています。



知的障害のある児童・生徒は、学習した内容が断片的になりがちであり、実際の生活の場で応用されにくいという障害特性があります。

イやウの内容の取扱いのように、教科別の指導において身に付けた力を、各教科等を合わせた指導の生活に即した一連の活動の中で発揮できるようにし、定着させていくことが大切です。

また、オの内容については、各教科等を合わせた指導において培った力を、今後、教科別の指導において深化させていくことができるよう、教科別の指導を設定していくことも考えられます。



6 知的障害の状態から、学習した段階についての正確な情報を進学先に引き継ぐ事例 (F 中学校特別支援学級 数学)

年間指導計画より

月	単元名	時数	月	単元名	時数
4	長さの単位	4	5	図形(三角形、四角形)	4
	定規の使い方	4		引き算	3
				時間と時刻	4

年間指導計画
からシートへ

○7月の単元終了時の到達状況

1段階						到達状況			
イ	月	内容	時数	形態	教科別	A	B	C	D
						1年	2年	3年	4年
A 全部	4	目盛の原点を対象の端に当てて測定すること。	4	形態	教科別	○	○	○	△
	11	位置	4	教科別	教科別	○	○	○	△
	④	長さの単位[ミリメートル(mm)、センチメートル(cm)、メートル(m)、キロメートル(km)]や重さの単位[グラム(g)、キログラム(kg)]について知り、測定の意味を理解すること。	時数	形態					
測定 一部	4	長さの単位	4	教科別	教科別	△	△	△	△
	⑦	時間の単位(秒)について知ること。	時数	形態					
	5	時間と時刻	4	教科別	教科別	△	○	△	△
イ 全部	④	日常生活に必要な時刻や時間を求めること。	時数	形態					
	5	時間と時刻	4	教科別	教科別	△	○	△	△
	⑦	時間の単位に着目し、簡単な時刻や時間の求め方を日常生活に生かすこと。	時数	形態					
A 全部	5	時間と時刻	4	教科別	教科別	△	○	△	△

7月の単元終了時の到達状況を確認すると、中学部1段階の内容で指導をしている第3学年のDさんは、到達状況が「△要再指導」です。

2学期以降にも、指導を行うことを計画している内容もありますが、Dさんの発達の段階及びこれまでの学習状況からは、引き続き1段階の内容を確実に身に付けることが必要と考えられます。



知的障害の状態によっては、卒業時までには各学部の最終段階の内容の指導を計画することができない場合もあります。

このような場合、進学先の学校に、その児童・生徒がこれまで学習してきた内容の段階を正確に引き継ぐことが重要となります。

「一貫した教育課程」構築のポイント

知的障害のある児童・生徒の場合、指導者や場面が変わることで、到達状況に変化がみられることもあります。そのため、到達状況が一度「◎概ね達成」となった内容についても、指導者や場面が変わったところで、学習の習得状況を確認することが大切です。より正確に習得状況を引き継ぐために、36ページで示した到達状況の表記の例のほか、各学校で「定着度の確認が必要」などの表記の工夫を行うことも考えられます。

7 教科内の各分野の到達状況に応じて、学習する段階の違いを明確にして指導する事例 (G 特別支援学校 高等部 国語)

年間指導計画より

月	単元名	時数	月	単元名	時数
4	仲間の自己紹介を聞こう	8	5	説明文を読もう	6
				丁寧な言葉	6

年間指導計画からシートへ

○7月の単元終了時の到達状況

		到達状況							到達状況																																		
		A	B	C	D	E			A	B	C	D	E																														
		年	年	年	年	年			年	年	年	年	年																														
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>中学部 1段階の内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ア</th> <th>月</th> <th>見聞きたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめること。</th> <th>時数</th> <th>形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全部</td> <td>4</td> <td>仲間の自己紹介を聞こう</td> <td>8</td> <td>教科別</td> </tr> <tr> <td>全部</td> <td>10</td> <td>メモをとろう</td> <td>6</td> <td>教科別</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 48%;"> <p>中学部 2段階の内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ア</th> <th>月</th> <th>身近な人の話し放話などを聞きながら、聞いたことを簡単に書き留めたり、分からないときは聞き返したりして、内容の大体を捉えること。</th> <th>時数</th> <th>形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全部</td> <td>4</td> <td>仲間の自己紹介を聞こう</td> <td>8</td> <td>教科別</td> </tr> <tr> <td>全部</td> <td>10</td> <td>メモをとろう</td> <td>6</td> <td>教科別</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>														ア	月	見聞きたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめること。	時数	形態	全部	4	仲間の自己紹介を聞こう	8	教科別	全部	10	メモをとろう	6	教科別	ア	月	身近な人の話し放話などを聞きながら、聞いたことを簡単に書き留めたり、分からないときは聞き返したりして、内容の大体を捉えること。	時数	形態	全部	4	仲間の自己紹介を聞こう	8	教科別	全部	10	メモをとろう	6	教科別
ア	月	見聞きたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめること。	時数	形態																																							
全部	4	仲間の自己紹介を聞こう	8	教科別																																							
全部	10	メモをとろう	6	教科別																																							
ア	月	身近な人の話し放話などを聞きながら、聞いたことを簡単に書き留めたり、分からないときは聞き返したりして、内容の大体を捉えること。	時数	形態																																							
全部	4	仲間の自己紹介を聞こう	8	教科別																																							
全部	10	メモをとろう	6	教科別																																							
ア	月	見聞きたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめること。	時数	形態					ア	月	身近な人の話し放話などを聞きながら、聞いたことを簡単に書き留めたり、分からないときは聞き返したりして、内容の大体を捉えること。	時数	形態																														
全部	4	仲間の自己紹介を聞こう	8	教科別	△	△	△	△	全部	4	仲間の自己紹介を聞こう	8	教科別																														
全部	10	メモをとろう	6	教科別					全部	10	メモをとろう	6	教科別																														
ウ	月	文の構成、語句の使い方に気を付けて書くこと。	時数	形態					ウ	月	見聞きたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること。	時数	形態																														
全部	通年	文法の学習		教科別	△	△	△	△	全部	4	相手の伝わるように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすること。	時数	形態																														
全部	通年	文法の学習		教科別	△	△	△	△	全部	4	相手の伝わるように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすること。	時数	形態																														
エ	月	自分が書いたものを読み返し、間違いを直すこと。	時数	形態					エ	月	自分が書いたものを読み返し、間違いを直すこと。	時数	形態																														
全部	4	仲間の自己紹介を聞こう	8	教科別	△	△	△	△	全部	4	仲間の自己紹介を聞こう	8	教科別																														
全部	4	仲間の自己紹介を聞こう	8	教科別	△	△	△	△	全部	4	仲間の自己紹介を聞こう	8	教科別																														

高等部 1段階の内容

「聞くこと・話すこと」については、中学部 2段階の内容について取り扱っています。
 「書くこと」については、書くことの内容に関しては、高等部 1段階、書き方に関しては、中学部 1段階の内容について取り扱っています。

同一の教科内でも、分野によって児童・生徒の到達状況は異なるため、それぞれの分野に応じた到達状況を把握し、適切な指導の段階を設定することが大切になります。



8 学習する分野のバランスを明確にして指導する事例 (H 特別支援学校 高等部 数学)

年間指導計画より

月	単元名	時数	月	単元名	時数
9	グラフを活用する	3.2	10	図形について知る	4.8
	お金の学習	5		お金の学習	5
				身の回りの単位について	2

年間指導計画からシートへ



高等部 1段階の内容で指導をしています。「数と計算」の分野を中心として、「図形」「データの活用」の3分野にわたって、内容を取り扱っています。

○7月の単元終了時の到達状況

		到達状況							到達状況					送達評価																																																	
		A	B	C	D	E			A	B	C	D	E	A	B	C	D	E																																													
		年	年	年	年	年			年	年	年	年	年	年	年	年	年	年																																													
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>1段階</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ア</th> <th>月</th> <th>万の単位を知ること。</th> <th>時数</th> <th>形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全部</td> <td>9</td> <td>お金の学習</td> <td>5</td> <td>教科別</td> </tr> <tr> <td>全部</td> <td>10</td> <td>お金の学習</td> <td>5</td> <td>教科別</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 30%;"> <p>1段階</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ア</th> <th>月</th> <th>平行四辺形、ひし形、台形について知る。</th> <th>時数</th> <th>形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全部</td> <td>7</td> <td>棒グラフの見方を知る</td> <td>2</td> <td>教科別</td> </tr> <tr> <td>全部</td> <td>9</td> <td>グラフを活用する</td> <td>3.2</td> <td>教科別</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 30%;"> <p>1段階</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ア</th> <th>月</th> <th>数量の関係を割合で捉え、円グラフや帯グラフで表したり、読み取りすること。</th> <th>時数</th> <th>形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全部</td> <td>7</td> <td>棒グラフの見方を知る</td> <td>2</td> <td>教科別</td> </tr> <tr> <td>全部</td> <td>9</td> <td>グラフを活用する</td> <td>3.2</td> <td>教科別</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>																			ア	月	万の単位を知ること。	時数	形態	全部	9	お金の学習	5	教科別	全部	10	お金の学習	5	教科別	ア	月	平行四辺形、ひし形、台形について知る。	時数	形態	全部	7	棒グラフの見方を知る	2	教科別	全部	9	グラフを活用する	3.2	教科別	ア	月	数量の関係を割合で捉え、円グラフや帯グラフで表したり、読み取りすること。	時数	形態	全部	7	棒グラフの見方を知る	2	教科別	全部	9	グラフを活用する	3.2	教科別
ア	月	万の単位を知ること。	時数	形態																																																											
全部	9	お金の学習	5	教科別																																																											
全部	10	お金の学習	5	教科別																																																											
ア	月	平行四辺形、ひし形、台形について知る。	時数	形態																																																											
全部	7	棒グラフの見方を知る	2	教科別																																																											
全部	9	グラフを活用する	3.2	教科別																																																											
ア	月	数量の関係を割合で捉え、円グラフや帯グラフで表したり、読み取りすること。	時数	形態																																																											
全部	7	棒グラフの見方を知る	2	教科別																																																											
全部	9	グラフを活用する	3.2	教科別																																																											
ア	月	万の単位を知ること。	時数	形態					ア	月	数量の関係を割合で捉え、円グラフや帯グラフで表したり、読み取りすること。	時数	形態																																																		
全部	9	お金の学習	5	教科別					全部	7	棒グラフの見方を知る	2	教科別	○	○	○	○	○																																													
全部	10	お金の学習	5	教科別					全部	9	グラフを活用する	3.2	教科別																																																		
ア	月	億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についての理解を深めること。	時数	形態					ア	月	図形の形や大きさが決まる要素について理解するとともに、図形の合同について理解すること。	時数	形態																																																		
全部	10	電算計算	2	教科別					全部	7	図形について知る	5	教科別																																																		
全部	10	電算計算	2	教科別					全部	7	図形について知る	5	教科別																																																		
ア	月	数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉え、それらを日常生活に生かすこと。	時数	形態					ア	月	三角形や四角形など多角形についての性質を理解すること。	時数	形態																																																		
全部	10	身の回りの単位について	2	教科別					全部	7	図形について知る	5	教科別																																																		
全部	10	身の回りの単位について	2	教科別					全部	7	図形について知る	5	教科別																																																		
ア	月	数の表し方の仕組みに着目し、数の相対的な大きさを考慮し、計算などに有効に生かすこと。	時数	形態					ア	月	図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考慮し図形の性質を見だし、その性質を基に既習の図形を探求すること。	時数	形態																																																		
全部	11	生活の中で実際にかかる金額について知る	1	教科別					全部	7	図形について知る	5	教科別																																																		
全部	12	生活の中で実際にかかる金額について知る	1	教科別					全部	7	図形について知る	5	教科別																																																		
ア	月	複数が用いられる場面について知る。	時数	形態					ア	月	図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考慮したり、図形の性質を見だし、その性質を基に立てて考え説明したりすること。	時数	形態																																																		
全部	5	時刻表を使って予定を立てる	3	教科別	○	○	○	○	全部	7	図形について知る	5	教科別																																																		
全部	6	時刻表を使って予定を立てる	3	教科別	○	○	○	○	全部	7	図形について知る	5	教科別																																																		

※取り扱っている内容のセルに色が付くため、指導している分野のバランスを把握しやすくなります。

各教科に示されているそれぞれの分野については、バランスよく取り扱うようにする必要がありますが、重点の置き方は、各学校の教育目標によって異なり、各学校の特色が反映されることとなります。ただし、特定の分野への偏りが大きくなならないよう、それぞれの学校段階終了までを見据えて、計画的に指導を進めることが必要となります。



9 前籍校で学習した内容段階を的確に引き継いで指導計画を立て、指導する事例 (I 特別支援学校 高等部 数学)

年間指導計画より

月	単元名	時数	月	単元名	時数
4	大きい数(読み・書き)	6	5	小数の計算	6

年間指導計画からシートへ



中学校では中学部2段階の内容を学習してきたことの引継ぎを受け、「数と計算」の分野では、中学部2段階の内容から、高等部1段階の内容までを取り扱っています。高等部第1学年における学習内容を設定するに当たっては、中学校修了段階での到達状況を踏まえています。

○7月の単元終了時の到達状況

中学部 2段階				到達状況					高等部 1段階				到達状況					
				A	B	C	D	E					A	B	C	D	E	
				1	1	1	1	1					1	1	1	1	1	
				年	年	年	年	年					年	年	年	年	年	
数と計算	7月	4位数までの十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について、理解すること。	時数	形態														
	4	大きい数(読み、書き)	2	教科別	◎	○	◎	◎	○									
	10月	10倍、100倍、1/10の大きさの数及びその表し方について知ること。	時数	形態														
	11月	数を千を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解を深めること。	時数	形態														
	12月	億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についての理解を深めること。	時数	形態														
	4	大きい数(読み、書き)	2	教科別	◎	△	○	○	○									

各学部・学校修了段階での学習内容及びその到達状況を正確に把握できていることで、進学後の指導内容の設定を適切に行うことができます。



「一貫した教育課程」構築のポイント

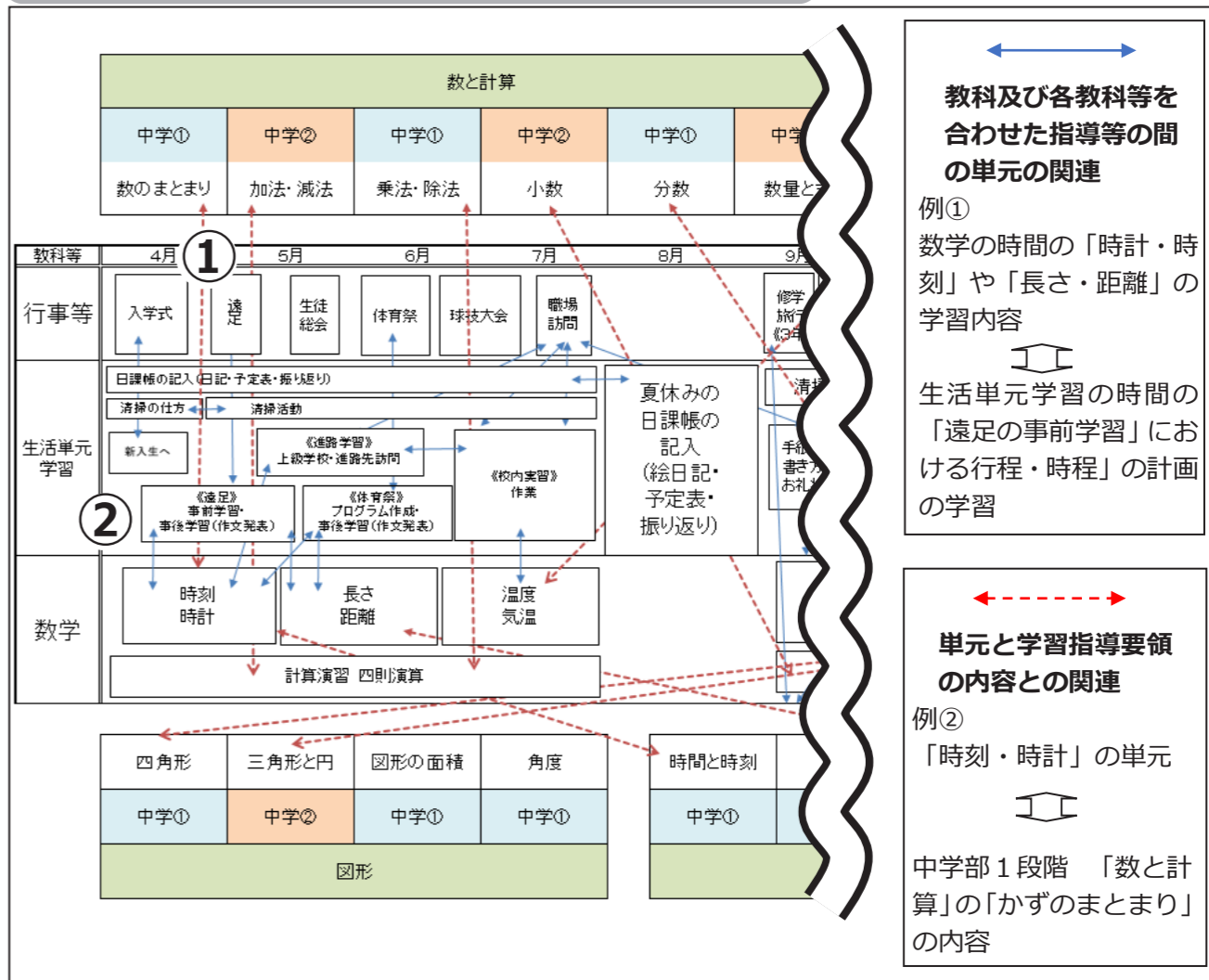
このシートの活用を積み重ねることで、各校において、各学校段階修了までを見通した各教科の指導内容を、幾つかの習熟度別の学習集団ごとに整理することができるようになります。これにより、12年間の「一貫した教育課程」を構築していく上で必要な、「各学校段階で身に付ける力」が明らかとなります。

8 既存の単元配列表を活用した「一貫した教育課程」構築の取組事例

中学校知的障害特別支援学級における取組事例

【単元配列表の作成から特別支援学校学習指導要領との関連性の明確化へ】
 これまでの年間指導計画は、「いつ」、「どのような単元を行うか」だけが記載されており、各教科と各教科等を合わせた指導との関連性を充実させるため、新たに単元配列表を作成し、各単元のつながりを明らかにした。
 その上で、「一貫した教育課程」構築の指針を踏まえ、単元配列表を基に、特別支援学校学習指導要領と年間の単元計画との関係を明確にした。

特別支援学校学習指導要領との関連を示した数学の単元配列表



教科及び各教科等を合わせた指導等の間の単元の関連
 例① 数学の時間の「時計・時刻」や「長さ・距離」の学習内容
 生活単元学習の時間の「遠足の事前学習」における行程・時程の計画の学習

単元と学習指導要領の内容との関連
 例② 「時刻・時計」の単元
 中学部1段階 「数と計算」の「かずのまとまり」の内容

「特別支援学校学習指導要領と年間指導計画を関連付けるシート」はツールの一例です。各校が、「一貫した教育課程」を構築するための指針に基づいた取り組みを進めることが大切なことです。ただし、学校間接続の観点から考えると、同じツールを共有することで、児童・生徒がこれまで学んできたことの引継ぎがより円滑になります。



9 特別支援学校学習指導要領の内容に基づく実際の指導例

1 小学校特別支援学級の例

◎目標 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付ける。

【取り扱っている内容】

国語科 小学部 3段階 A 聞くこと・話すこと

オ「相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気を付けること。」

教科別の指導（国語）
単元名「物語を読もう」

学習活動	指導上の留意事項
・食べ物や野菜の絵カードを見て、物の名前を答える。	・発音が不明瞭な場合は、口の動きを見せて模倣できるようにする。
・物語の教材文をグループで1行ずつ回して読む。	・「声のものさし」を見せて、声の大きさを意識できるようにする。

各教科等を合わせた指導（日常生活の指導）
単元名「朝の会」

学習活動	指導上の留意事項
あいさつの歌、日付、曜日、天気、今日の予定を一人一人発表する。	短い言葉を言う中で、母音に応じた口の動かし方を意識して発音できるようにする。

汎化

「課題に対して答える」、「教材を読む」活動を通して、発音の仕方や声の適切な大きさを身に付ける。

毎日繰り返される「朝の会」の一連の流れにおいて、適切な発音や声の大きさで発表をする活動を行う。

活用

各教科等を合わせた指導（生活単元学習）
単元名「学芸会の練習」

学習活動・内容	指導上の留意事項
・自分の台詞を読む。	発音が不明瞭な場合は、口の動きを見せて模倣できるようにする。
・練習したことを生かして、劇の通し練習をする。	

国語や日常生活の指導で学んだ、「適切な発音と声の大きさに気を付けて話すこと」を踏まえ、その力を劇で演じる活動に生かす。



学習活動は様々ですが、身に付けたい資質・能力の1つとして、どれも「相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気を付けること」が設定されています。

2 中学校特別支援学級の例

◎目標 筋道立てて考える力や豊かに想像する力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。

【取り扱っている内容】

国語科 中学部 2段階 C 読むこと

ア「様々な読み物を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること」

教科別の指導（国語）
単元名「和歌に親しむ」

学習活動	指導上の留意事項
・百人一首の和歌を読む。 ・古語の表現を理解し、和歌の意味をつかむ。 ・百人一首の取り札（字札）を作成する。	・意味の切れる箇所を意識できるように、視覚的に示して読むことができるようにする。 ・和歌の内容の説明について、各生徒の理解度を丁寧に確認する。

活用

各教科等を合わせた指導（生活単元学習）
単元名「百人一首大会を開こう」

学習活動・内容	指導上の留意事項
・百人一首の読み札（絵札）を作成する。 ・読み札には、和歌の情景を表す絵を描くようにする。 ・作成した百人一首を使って、大会を行う。	・国語で学習した百人一首の解釈をまとめたノートを参照できるようにする。 ・絵を描くのが苦手な生徒には、PCで画像を出したり、雑誌等の切り抜きなどを貼ったりするなど、他の手段で作成できるようにする。



国語で学習した百人一首の和歌の情景を絵で表し、自分たちだけのオリジナルの百人一首を作成し、その後、カルタ取りの大会を行います。国語の授業だけでなく、生活単元学習の授業においても、和歌の情景を表す絵を描く活動で、国語科の「情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること」を取り扱っています。

知的障害のある児童・生徒に対して、12年間の学校生活をとおして、確実に学びを積み上げていけるよう、各学校が一貫した教育課程を構築することが必要です。

児童・生徒に身に付けたい資質・能力を明らかにするとともに、児童・生徒が学習した内容が確実に引き継がれていくよう、本書で示しているシートを活用するほか、自校に合った工夫を各学校で講じていくことが大切です。

*シートは、東京都教育委員会ホームページ「指導資料・報告書等」に掲載されている本報告書のデータからダウンロードすることができます。

◎参考

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）には、知的障害のある児童・生徒の教育的対応の基本として、次の10項目が明示されています。この10項目を参考にして、指導計画の充実を図っていきましょう。

—【知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本】—

- ① 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第1章第3節の3の(1)のク及び(3)のアの(オ)に示すとおり、児童生徒の知的障害の状態，生活年齢，学習状況や経験等を考慮して教育的ニーズを的確に捉え，育成を目指す資質・能力を明確にし，指導目標を設定するとともに，指導内容のより一層の具体化を図る。
- ② 望ましい社会参加を目指し，日常生活や社会生活に生きて働く知識及び技能，習慣や学びに向かう力が身に付くよう指導する。
- ③ 職業教育を重視し，将来の職業生活に必要な基礎的な知識や技能，態度及び人間性等が育つよう指導する。その際に，多様な進路や将来の生活について関わりのある指導内容を組織する。
- ④ 生活の課題に沿った多様な生活経験を通して，日々の生活の質が高まるよう指導するとともに，よりよく生活を工夫していこうとする意欲が育つよう指導する。
- ⑤ 自発的な活動を大切にし，主体的な活動を促すようにしながら，課題を解決しようとする思考力，判断力，表現力等を育むよう指導する。
- ⑥ 児童生徒が，自ら見通しをもって主体的に行動できるよう，日課や学習環境などを分かりやすくし，規則的でまとまりのある学校生活を送れるようにする。
- ⑦ 生活に結びついた具体的な活動を学習活動の中心に据え，実際的な状況下で指導するとともに，できる限り児童生徒の成功経験を豊富にする。
- ⑧ 児童生徒の興味や関心，得意な面に着目し，教材・教具，補助用具やシグ等を工夫するとともに，目的が達成しやすいように，段階的な指導を行うなどして，児童生徒の学習活動への意欲が育つよう指導する。
- ⑨ 児童生徒一人一人が集団において役割が得られるよう工夫し，その活動を遂行できるようにするとともに，活動後には充実感や達成感，自己肯定感が得られるように指導する。
- ⑩ 児童生徒一人一人の発達の側面に着目し，意欲や意思，情緒の不安定さなどの課題に応じるとともに，児童生徒の生活年齢に即した指導を徹底する。